

ぎふ感染症かわら版

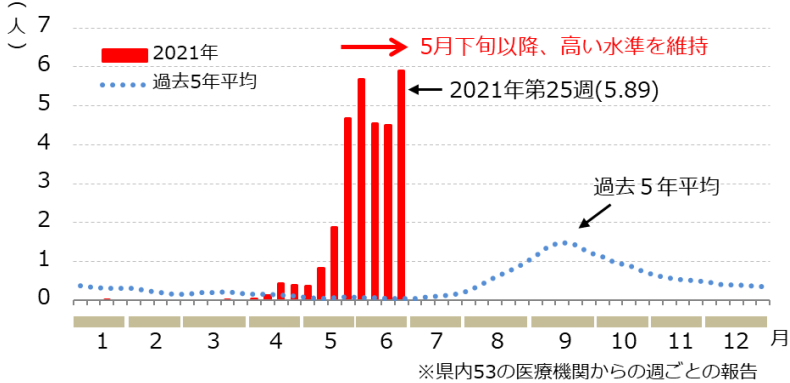
令和3年7月2日 岐阜県感染症情報センター（岐阜県保健環境研究所）



RSウイルス感染症の流行が続いています！

RSウイルス感染症が岐阜県内で現在非常に流行しており、流行の規模を示す1医療機関あたりの患者数が5月下旬以降高止まりしている状況です。この流行期を終息させるため、感染予防へのご協力をお願いします。

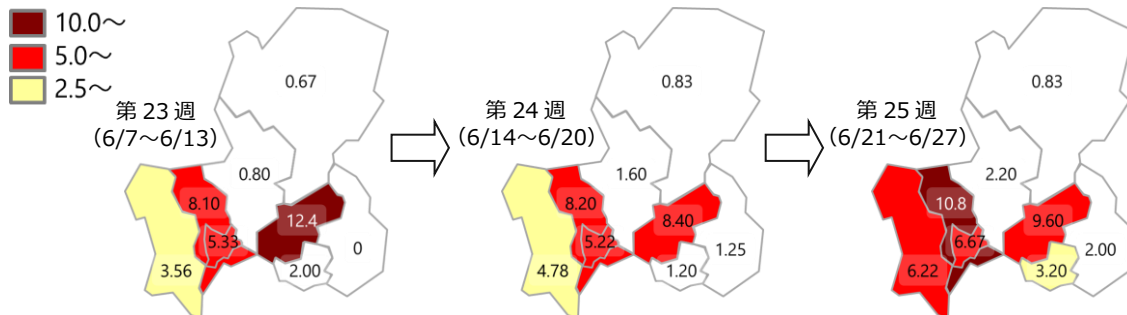
RSウイルス感染症の1医療機関あたりの患者数の推移(岐阜県全体)



RSウイルス感染症は、はじめて感染した場合は重くなりやすく、特に赤ちゃんでは細気管支炎や肺炎などの重い症状をおこしやすくなります。感染している人のくしゃみや咳などによる飛沫感染、あるいはウイルスの付いた手指などを介した接触感染によってうつりますので、一般的な予防が大切です。



保健所管轄毎の1医療機関あたりの患者数の推移(過去3週間)



RSウイルスの感染に注意が必要な人

- ◆ 生後6か月までの乳児
- ◆ 心臓や肺、または免疫不全の基礎疾患をもつ小児
- ◆ 慢性呼吸器疾患（ぜんそくなど）の基礎疾患をもつ高齢者



- 石けんを使った手洗いと、アルコールによる手指の消毒をおこないましょう

- かぜのような症状があるときは、できるだけ赤ちゃんや高齢者と身近に接することを控えましょう

※年長のお子さんや大人の場合、RSウイルスに感染しても、軽い症状ですむことが多いため、気づかずに赤ちゃんにうつしてしまうことがあります。

- 咳が出るときはマスクを着用し、咳エチケットを心がけましょう



保育所や幼稚園、高齢者施設など、希望される施設に対して「ぎふ感染症かわら版」のメール配信もおこなっています。くわしくは岐阜県感染症情報センターホームページをご覧ください。

岐阜県感染症情報センター

